

西成先生の
実践事例紹介

PLAYFUL! SUSTAINABLE! REGENERATIVE! ひとと自然が生きるまちづくりプロジェクト

サンポート周辺プロムナード化 (2023～)

まちなかのにぎわい再生は、地方都市の中心課題の一つ。歩いて楽しいまちにしようという県・高松市のプロムナード化計画に参画し、新たに整備したプロムナードの空間デザインを提案しました。プロムナードと県立アリーナの完成で、サンポート界隈の人の流れは実際に大きく変わってきています。今後はこのにぎわいを中心商店街エリアへと結ぶ空間デザインを通じて、



まちなか全体のにぎわいづくりを検討中。核となる施設(ハード)を活かして日常的ににぎわう仕組み(ソフト)を生み出す官民連携のプロジェクト例です。



観光庁長官賞
受賞

屋島山上ちようちんカフェ (2015～)

屋島の観光再生をテーマに屋島の魅力を見つめ直した時、学生たちが挙げたのは夕夜景の美しさでした。単なるPRではなく、新たな価値創造として目を付けたのが県の伝統工芸品・讃岐提灯。美しい風景の価値を夜間観光に結びつけ、社会実験的にスタートしたのが「ちようちんカフェ」です。カフェは期待以上に反応がよく、期間限定とはいえ今年で10年目を迎えました。産業×観光のアプローチは讃岐提灯の活性化にもつながり、学生による地域貢献の好例となりました。



峰山畑

ちよんまいガーデンプロジェクト (2018～)

地域再生や持続には、都市部だけでなく農村の活性化も重要です。「テリトリーオの再生」の考え方に基いて、課題解決型インターンとして民間の農園と協働し、人にも土地にもやさしいオーガニック農業を実践する実験場を峰山につくりました。自然農法・有機栽培でつくった野菜は、傷みにくく健康にもいいもの。コンクリートで覆われた風景ではなく、地域の生態系を守って、子どもたちにも身近な農地の未来像を発信していきます。



中四国エリア
「ディスカバー農山漁村の宝」
受賞

五郷里づくりの会 (2010～)

香川県農村整備課と連携し、県内の中山間地で地域活性のコミュニティづくりをサポートしています。具体的には、衰退する中山間地を元気にしていく住民チームを育て、大学のサポートが終了しても継続的に地域を活性する仕組みづくりに取り組んでいます。最初に手掛けたのが観音寺市五郷地区。住民の方々とワークショップを繰り返し、「五郷里づくりの会」を結成。会は地域のシンボルとして水車を復活させ、その水車でそば粉を挽き、そのために耕作放棄地を活用してそば畑を広げていっています。こうした取組は住民の自信にもつながり、中四国エリア「ディスカバー農山漁村の宝」に認定。



こんなまちづくりにもかかわっています

- 丸亀市大手町4街区再編整備
- 善通寺市ウォークアブル事業
- 県中山間地コミュニティづくり(荘内半島、水主、庵治、府中)
- 香川大学幸町南キャンパス整備(かがアドVol.35参照)

高松市美しいまちづくり賞
受賞

研究者紹介

複雑な社会課題を改善する

地域の活力と誇りを 再生する都市デザイン

「空間×デザイン×経営」のまちづくり

経済学部 教授

にし なり のり ひさ
西成 典久

東京都中野区出身。東京工業大学大学院社会工学専攻修了。2010年から経済学部准教授、18年から現職。専門は都市計画・景観デザイン・まちづくり実践。

衰退する地域を どう元気づける？ 新たな社会ビジョンの構築

研究者には研究・教育・実践の軸があり、私は実践に重点を置くタイプです。研究の核となるテーマは都市計画と景観デザイン、総合して都市デザインとも呼ばれます。地形・歴史・文化・経済など分野融合的な視点から、地域の魅力とアイデンティティを再定義し、総合的な空間ビジョンから具体的な地域の課題解決につながる実践に取り組んでいます。

現代の社会課題は「Wicked Problem(厄介な問題)」といわれ、一つ一つを対症的に解決しようとするよりも、根本的に暮らし全体を見直して新たな社会ビジョンを構築・再定義することで改善を図っていく必要があります。近年は一分野の専門知のみではなく、多分野・多機関が共創する総合知が求められる傾向にあり、地域社会が新しい将来ビジョンを確立していく上で、バックキャスト(逆算)によって政策・経済を支えるのが私たち大学の役割だと言えるでしょう。

経済・経営をベースに 地域共創による社会実践

都市デザインを軸に、経済・経営、マネジメントなどの切り口で学生たちとチームをつ

くって実践する。本学の経済学部は、以前から主体的に地域で活動する学生プロジェクトを社会実践に活かす取組に力を入れてきました。「ちようちんカフェ」に象徴される学生たちの独創的なアイデアは、これからどうなりたいか・どうしたいか・どうありたいかという魅力的な将来像をイメージするアイト思考の賜物。そのイメージをどのように実現するのか、他者視点から具体的な仕組みを考えるのがデザイン思考です。

私がこれから大切にしたいのは、後に残るものを地域につくること。本格的に社会を変えていく可能性があるプロジェクトを、地域との広い共創によって実践したい。私自身や学生たちが一緒にやりたいと地域に思ってもらえる存在であるよう、常にオープンかつコミュニケーションに、柔軟に変化し続けていきたいと思っています。

日本
都市計画学会
論文賞

日本
観光研究学会
著作賞

西成先生の近著

『高松海城町の物語～瀬戸内の海城が開いた都市デザイン～』

